

第4回

湯崎知事と 「ひろしまの未来を語る」 (府中市)

と き 令和3年3月22日(月)

ところ 恋しき

目次頁

開 会	2
知事ビジョン説明	2
参加者①	5
参加者②	7
参加者③	8
参加者④	9
フリートーク	12
閉 会	17

広島県

開 会

司会（近藤）： 皆様、お待たせしました。

ただいまから、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」意見交換会、「ひろしまの未来を語るin府中市」を開催いたします。

はじめに、本日御参加の皆様を御紹介いたします。

湯崎知事から反時計回りで、平康太朗さんです。竹内茂樹さんです。大畑乃愛さんです。横山聖美さんです。

また、本日は府中市長、小野申人様、広島県議会議員、岡崎哲夫様にも御出席いただいております。

お忙しい中、誠にありがとうございます。

この会の模様は、ユーチューブでライブ配信を行っております。

通信回線の状況によっては、画像が乱れることもありますので御承知ください。

また、県のフェイスブックを通じて、ライブ配信を御覧の皆様から、御意見や御感想を募集しておりますので、フェイスブックを御利用の皆様は、ぜひ広島県の公式アカウントにコメントいただければと思います。

意見交換

司 会： 続きまして、本日、意見交換いただきますテーマであります「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の説明、その後、意見交換に入りますが、ここからは湯崎知事に進行役をお願いしたいと思います。

湯崎知事どうぞよろしく願いいたします。

湯崎知事： あらためまして、広島県知事、湯崎でございます。

今日は皆さん大変お忙しい中、御参加いただきましてありがとうございます。

小野市長、それから岡崎先生も御参加いただいてありがとうございます。

また、ウェブの向こうで御覧いただいている皆さん、本当にありがとうございます。

ちょうど今からお腹が空いてご飯食べようという時に、これをやっているって、ご飯食べながら見てください。

ぜひリラックスして御覧いただければと思います。

広島県では、10年後の目指す姿、それから、その実現に向けた方向性、どのようにそれを実現するのかということを示した総合計画、この新たな総合計画を昨年10月につくりました。「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」と言います。

このビジョンによる新たな広島県づくりを、皆さんと一緒に進めたいと思っております。そのために皆様の率直な御意見を各地でお伺いして、意見交換させていただく、そういう会として、これをやらせていただいております。

それで今後の施策に生かしていきたいと考えているところです。

それでは初めに私から、このビジョンのポイントについて、簡単と言いつつも20分ぐらいかかるんですが、御説明させていただきます。

ここに資料がございますが、策定にあたっていろいろなことが背景というか、考慮すべき背景事項としてあるわけですが、例えば人口減少とかグローバル社会とか、こういったことは前から言われていることですが、前のビジョンでも入っていたわけですが、特に近年、このデジタル技術、これがもうどんどん進んできて、それから今、いろいろなところで格差ということも、大きく問題として意識されるようになってきています。

これは世界で見てもそうですし、日本で見てもそうです。

それから災害、広島県でも30年、災害、非常に大きなものがございましたし、そして、もちろん足元は新型コロナというものがあって、これが新型コロナだけで終わるわけではないかもしれないというように、今、考えられているところです。

そういう中で広島県のビジョンをつくるときに、最初に、この一番右の方にありますけれど、あるべき姿、これは30年後にはこんな風になっていたよねという、30年後なので抽象的ではあるんですが、こんな風になっていたよねというのをつくりまして、その30年後のあるべき姿にたどり着くためには、10年後にはどのようなようになっていかないとはいけないだろうというのを、もうちょっと具体的に考えまして、そこにどうやっていくのかということ考えたものが、今回のビジョンとなっております。

まず、この基本理念と目指す姿というのがあるわけですが、基本理念というのは、将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現ということで、これはずっと恐らくあまり変わるものではないと思っています。

当面、目指す姿として、県民のお一人お一人が「安心」の土台、それから「誇り」を持って、夢や希望に「挑戦」をしているといったような姿、「仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現」というように打ち出しているところです。

仕事も暮らしもというのは、実は今年まで、今年度まで使っておりました総合計画、あるいはそのビジョンの中でも、仕事も暮らしも欲張りなライフスタイルを実現していこうというのを挙げていたんですが、その部分は変わらず、里もまちもという、広島県は都市部から田舎までいろいろあるわけですけれども、それぞれが自分の希望するライフスタイルを実現できるようにしていこうというような姿を、目指す姿としています。

ビジョンのポイントといたしまして、3つほどあります。

これは言ってみれば横串を刺しているような部分なんですけれども、まず先ほども出てきました「安心」の土台、それから「誇り」の高まりによって、夢や希望に「挑戦」をしていく、まず安心というベースのところがないと、その上で挑戦しようと思っても、なかなかグラグラしちゃう。

誇りというのは、自分に自信を持ったりとか、挑戦のエネルギーですよ。

それをつくっていくものになりますので、それをつくった上で、みんなそれぞれの夢であるとか希望に挑戦できる、そういったことを考えていこうということですのでけれども。

それから、もう一つは、今のコロナを特に踏まえたところで、「適散・適集社会」のフロントランナーというようにいってまして、これまでは例えば都会にとかく人が集まって、密になることで新しいサービスを生んだりとか、あるいは生産性を上げるといったようなことがいわれてきたわけですが、コロナでそれはあまり、実は過密すぎるのはよくないんじゃないかと。

一方で、もちろん過疎という問題があって、人が薄くなりすぎると、これはもちろん問題がいろいろあると。

広島県としては「適散・適集」、「適切な集積」と、それから「適切な分散」、こういった、実は環境にありますから、それを目指していこうと、都市と自然が近い。

府中市なんていうのは、まさにその典型になっていますけれど、都市と自然の、まさに中間に位置するようなところで、そういった特性を、広島自体がそういう特性を持っていると思います、それを活用していこうということですね。

それから、もう一つは、3つの視点というようにいってまして、これが「DXの推進」、デジタルトランスフォーメーションですね。

これがどんどん進む、それをしっかりと進めていこう、それから広島のブランド、広島としてのブランドを強化していこう、それから人材育成をしっかりとしていこう、こういう3つのポイントがございます。

今、いろいろな不安があると思いますね。

コロナもそうですけれども、例えば将来的な健康や高齢化だとか、あるいは年金の問題とか医療の問題とか、いろいろな心配がある。

これは、まず不安を軽減して安心につなげていこうと。

そのためのいろいろなもの、いろいろなイノベーションによって不安になる要素そのものを取り除いていくとか、しっかりとセーフティーネットを構築していくとか、あるいは学びをしっかりとする、人材育成をしっかりとすることによって能力を強化していくといったようなことですね。

あるいは地域のネットワークを、もう一度しっかりとつくり直そうとか、そういうようなことで安心をつくっていくと。

その上で、誇りというのは広島県の強みがベースとなってきますから、広島の山・海の自然、あるいは、これも府中市、非常に典型的ですけれども、もう新進気鋭のいろいろなものをつくってきたと、時代に応じてつくってきたというようなスピリットですよ。

そういった誇りを、また高めていこうと。

世界の中で広島ありというように、思っただけのようなものにしていこうということです。

それをベースにして次に挑戦という、安心の土台と誇りの高まりを原動力として、そ

れぞれが挑戦できるような、何に挑戦するかというと、それぞれいろいろな挑戦があるわけでありまして、それぞれが求める夢だとか希望だとか、そういったものを追求することができるようにしていこうということですね。

「里もまちも。」というところが先ほど出てきました。

この中では、地域のことをいうと、広島市とか福山市といった中核になるようなところが、しっかりと魅力ある都市というか、都市の魅力をしっかりとつくっていこう。

それから中山間地域というのも、先ほどの適散という意味でも非常に今、価値が高まっているというところがあります。

だけれど過疎の問題もあるので、それをしっかりと対応して、魅力ある地域にしていこう。

それから都市と中山間地域をつなぐ利便性の高い集約型都市構造、これもまさに、また府中市がそういうところですけども、それぞれのいろいろな特性、それぞれの地域の特性に応じた発展を目指していこうことであります。

適散・適集ですけども、これも先ほど申し上げたように、これまでの密ということだけでは駄目だと。

今は、この一番下にありますようにデジタル技術を使ったら、密に、実際に人が集まらなくても済むことがたくさんあるじゃないかということで、このデジタル技術を活用しながら、こういった適切な分散をつくっていくということ、次のページも御覧いただけたらと思いますけれども、都市部とも連携しながら、またデジタル技術を使いながら、適散・適集社会というのをつくっていこうと。

次を御覧いただくと、広島が、もうまさに豊かな自然もあれば都市部もあるということで、こういった特性を持った地域が直接世界とつながることによって、またデジタル技術を使って生産性を上げることによって、ある時には、そうはいつでも直接顔を見合わせながら集まるということも大事ですし、いつもそれで集まっているわけでもないし、集まりすぎると今度はいろいろなコロナの問題も起きるので、分散もしながら自由度の高い、満足度の高い暮らし方、働き方、これは時間や場所にとらわれないということが、これからのデジタル社会で実現ができる動きじゃないかなと思っています。

先ほど申し上げた、この3つの視点ですね。

今、申し上げたように適散・適集を実現するためのデジタル技術、それからそれはただ単に適散・適集を実現するだけではなくて、今の、次の時代の付加価値を生んでいく上での、デジタルトランスフォーメーションの重要性ですね。

嫌でもデジタルトランスフォーメーションはやってくるので、嫌でもやってくるんだったら、その波は自分たちでつくろうと、そのほうがいいですよということ、これを強化していくということですね。

それから、「ひろしまブランドの強化」というのは、この「ひろしまブランド」というのは、これまた、これだけでも多分2時間ぐらいしゃべれる中身なんですけれど、広島ってどんなところというの、みんなにしっかりと認知してもらおう、その価値が高いということを認知してもらおうという、それをベースに、いろいろな産業にしても観光にしても、あるいは暮らしにしても誇りを持って暮らしていけるという、そういうようなことにつながっていきますので、広島がいいところだということをしかりと、我々が再認識した上で、それをまた皆さんにも認知してもらおうということですね。

それから、全てのベースは人でありますので人材育成、これを産まれたときから、あるいは産まれる前から、学校教育はもちろんですけども、それが終わった後、仕事を始めるようになってからも人材育成をし続ける、逆に個人で見ると学び続けることができるという、そういう人を育成していこうというようにやっています。

こういった観点で施策領域としては、17ほどあるんですけども、17の領域に分けて、それぞれの目指す姿というのをつくって、それを追及していこうということですが、主な目標としては、例えば基幹産業とか成長産業とか、県の取り組みによる付加価値、これを5,000億円増やしていこうとか、そんないろいろな目標も設定しています。

例えば、どんな目指す姿になっているのというところというと、子供・子育てということだと、10年後の目指す姿、「全ての家庭を妊娠期から子育て期まで切れ目なく見守って、支援するネウボラが全市町に設置されています。

子育て家庭に関わる全ての医療機関とか保育所とか、いろいろな機関が子供たちを多面的・継続的に見守ることによって、必要な支援が届けられています。」といったような目指す姿、これはさらっと書いてありますけれど、実際にはこれ、なかなか大変なこと

でありまして、10年後にはこれを実現していこうということですね。

いろいろと、KPIと呼ばれるような目標数値を設定して、それを追いかけていこうというようなものですね。

あと教育ですと、いわゆる「学びの変革」という、上のところの真ん中にありますが、学びの変革って今、全県的に推進していますから、それが定着をしているというようなことですね。

そういったことを目指す姿に掲げたりとか、観光ですと「ひろしまブランド」「瀬戸内ブランド」の認識が高まって、もう一度、時間をかけて体験したいと思っていただけるような観光地になってとかですね。

これは観光消費額を8,000億円ぐらいにしていこうというようなことを打ち出しています。

今みたいなそれぞれの目指す姿が17分野で、17分野の中でもいろいろまたあるんですけども、それぞれの重要な分野ごとに目指す姿をつくって、これを実現していこうというのが、このビジョンになっています。

最後ですけれども、県内のどこに住んでいても、先ほどの「里もまちも。」という、そういうことですが、県民の皆さんお一人お一人が夢や希望に、欲張りに挑戦できる、そういった広島県づくりをつくってまいりたいと考えているところでございます。

ビジョンの説明については以上でございます。

続いて意見交換に、早速ですけれども入らせていただければと思います。

この進め方ですけれども、初めに5分ほど本日参加いただきました皆様から、お一人ずつ御意見、あるいは御提案を、御発言をいただきたいと思っております。

皆さんの御発言が一巡したら、残りの時間で、全員で意見交換をしたいと思っております。

一人一人ですりとりするんじゃなくて、一度全部皆さん御発言していただいた後で、みんなで一緒に議論しましょうということでもありますので、よろしくお願ひいたします。

発言の順番は、あらかじめ決めさせていただいて、お伝えさせていただいていると思っておりますので、御発言はお座りになったままでお願ひできればと思います。

それでは最初に平さんからお願ひいたします。

参加者①

平 : 平康太朗と申します。

よろしくお願ひいたします。

市内で会社員をさせていただいております。

今日は変なこと言わないように、ちゃんとメモを作ってきましたので、これを少し読みながら発表していこうと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

今回、こういう場に参加したことになりまして、あらためて、このビジョンというのを拝見して感じたのが、共感ということと誇りということと、そしてあるべき姿から、バックキャストしていくというやり方が非常に重要だと感じています。

行政が物事を描こうとすると、どうしても全網羅的に書かなきゃいけないものになってきて、かつ世界とか日本の、いわゆるすう勢とか、その方向性みたいなどころに、ある程度沿ったものになるので、どうしても独自性とか突き抜けたものとかって、なりにくいということが前提だと思いますけれども、そういった中で広島がこれから魅力的に感じられて、かつ選ばれていく都市であり県でありということにあり続けようと思ったら、どうしても先ほど御説明あったとお外から見た強み、言い換えると、これがひろしまブランドということだと思いますけれども、こういったところを際立たせるかというところが焦点になるかなというように、まず感じています。

ここで私がすごく重要だなと思ったのが、外から見た強みとかひろしまブランドということと、県民の私たちが感じている誇りというものが合致しているかということが、すごく大事ななと思っておりまして、いくら相対的に他県とか世界とかと比較して、優れているから強みですよということを外に対して言ったとしても、実際その自分たち、住んでいる県民、私たち一人一人が、それってそうなのかなって思っているうちは、なかなかそれが共感されることにつながらないんじゃないかなと思っています。

もう1個、この強みとかということに関して気になっているのが、どうしても強みというのは、今ある、私たちが持っているものを伸ばしていくというのが強みって、今、

位置付けられていると思っけていまして、こういったところはもちろん大事なんですけれども、新たに価値創造して強みになっていくところはないのかなってところは、ずっと入ってくるものが少なかったのかなと率直に感じました。

ただ、この一方で、御説明もあったとおり、適散・適集社会のフロントランナーというのはひとつ、広島がこれから新しくつくっていく、ひろしまブランドの柱になるんだろうと思っけていまして、こういうことを感じたときに、それがどういう未来なのか、その実現をするためにどう変わっていくのか、どう変化を起こしていくのかというところが、もう少し分かりやすくなるといいなと思っけています。

この話をした前段として、この話って実は府中市も全く同じことが言えるかなと思っけていまして、府中市の強みって何ってなると、ものづくりのまちとか、府中焼きとか、あと教育とか、もちろん、この恋しきもそうだと思いますけれど、こういったものが挙がってくると思っけていまして、これが住んでいる私たちのとつての誇りになっているかという、またこれも同じことが言えるんじゃないかなと。

冷静に考えると、企業がしっかり稼ぐから税収があるし、府中焼きがあるから集客につながっているし、教育があるから安心して子育てができるということていうと、誇りにつながっているはずなんですけれど、それが日々の暮らしに直結しないものになればなるほど、私たち、その誇りになかなか昇華できていないんじゃないかなと思っけています。

こういうことが、つながっていくと、こういう強みがあるのに暮らしにくいよなってイメージがどんどん先行していつて、そういうことをしていくと、ものづくりのまちを支えていく働く人がどんどん集まらなくなりますし、人がいなくなると、どんどんサービスが減っていく、低下していくということてつながっていくと、悪いスパイラルがどんどん加速していくことになると思っけていますね。

そういうことを食い止めるために、今、府中の総合計画とか総合戦略というものは、DXを積極的に使つて変わつていこうというように言っけていまして思っけていまして、私もこれはすごく大事ですし、もう府中のラストチャンスかなと正直思っけています。

働けるまちということが資産として、強みとして、事実としてあると思っけてるので、こういうところとDXというところの新たな手法を掛け合わせて、府中市の誇りに変えていくためには、私としては働けるということと暮らせるということが近くて実現できる、新しい価値みたいところを、しっかりまちとしてつくつていつて、それを感じてもらえる、そういうことに共感してもらえる人に住んでもらえるまちつてところを、目指していく必要があるんじゃないかなと思っけています。

具体的にどんなことになるんだろうつて考えたときに、例えば、優れた教育背景というところがあるんだとすれば、そういうところも生かしながら安心して子育てできる、共働きしてしっかり稼いで子育てもできるまちというところで、例えばDXを活用しながらしっかりブランディングしていくという、ひとつやり方としてあると思っけていまして、もう一方で新たな挑戦を始める環境として、例えば、そういう人たちがもっと挑戦するところをみんな、まちの人全体で知る、応援するという環境を整えるために、情報というものをしっかりDXで使つていく、活用していくということて、もっとまちなかで整備していくということも大事じゃないかなと思っけています。

そういうことの積み上げが、今、府中市に暮らしている人にとつての暮らしやすさにつながると思っけていまして、誇りになればと思っけています。

そういうことがどんどん具現化していつけば、外から見たときにDXと親和性がある子育て世代というところに響いてくると思っけていまして、かつそういう世代は、変化を求めるというところが、すごく変化を求めて、まちに集まってくると思っけていますので、そういう変化を起こすところの土台として、情報をしっかりDXで共有していくというところも大事じゃないかなと。

そういうことができれば、まさに府中市ならではの独自性のある集約型都市つてところのかたちができてくるし、それこそが府中ブランドみたいところを、つながってくるんじゃないかなと思っけていまして、こういうことをぜひ市の皆さんとも一緒に考えながら、官民一体でやっていきたいと思っけていまして、そういうことがぜひ県の方から注目値するつていうように思っけていただけると、ナレッジの提供ですとか補助金の交付みたいところも含めて、府中を応援してほしいと思っけていまして、そういうところを府中がしっかりかたちづくることてできれば、まさに適散・適集のフロントランナーのサンドボックスみたいところて府中を活用いただけると、ありがたいなと感っけておられます。

発表は以上でございます。

湯崎知事： 平さん、ありがとうございました。

強みとか、それから暮らしと、それからDXも活用しながら働く、それを実現することが新たな強みになるのではないかとというようなお話でありました。

どうもありがとうございます。

それでは続きまして竹内さんをお願いいたしたいと思います。

参加者②

竹内： よろしくお願ひします。

平さんと切り口が違うような感じがするんですけども、実は私は農業小規模事業者なんです。

なんで小規模事業者かという、農地中間管理機構が知事、ございますよね。

最初にした人が農業って6次産業なんだよって言われて、そっちのほうを本気に今、やっています、あの人のおかげで実は4年連続、道の駅ナンバーワンなんです、私。

彼の発信力というんですか、非常に県の発信力でも良かったなという感じがしています。

また、県知事には、実は8年前、県知事が山の上のほうをずっと通って来られまして、私、諸毛という山の上なんですよね。

その前に上下か世羅のほうから来られて、そのときに県知事、言われたのが、こんな地域が発展することが、広島県が発展することなんだよと言われて、もううれしくなっていて、みんなで県知事を囲んで写真撮って、それが今、公民館に飾ってあります。というように、非常に県知事の発信力の素晴らしさというのを感じます。

実は私、府中市の農業法人の役員をしまして農業の話をしたんですけど、実際、農業法人、また認定農家というのが国の指針ですよ。

だけれど現実的には農業法人が、辞めるところが出てきたんですね。

これは各市も県もそうですけれども、職員の皆さんに聞かれたら、なぜこういうことが起きているのか分かります。

農業のことをあまり言っていると自分自身が惨めになりますんで、これで農業のことはやめます。

私が言いたいのは次のことで、中山間地域振興課という部署がありますね。

あの部署は恐らく、もう県知事がこれなんだってつくられた部署じゃないかという思いで、私は。実際は去年の10月に新聞報道されまして、絶対会いたいわ、ゆうて思って、12月8日に先生をお願いして会いに行きました。

そうしたら非常に素晴らしいですね、発想とか、うんぬんが、30分しか話できませんでしたが共感していただきました。

本当はもう一回会いたかったんだけど、知事に会うというのが、ちょうどその頃、知事に会うというのがありましたね。

中山間地域振興というのは本来、府中市が過疎地域になったときにできた部署なんです、過疎地域認定が起きたとき。

そういうようなことで、早く私が知っていれば、もっと利用できたんですけど、じゃあ何がやりたいんだという、実際は、これを出していると思いますよね。

これは観光協会が協力してくれまして、ここに写真があると思いますよ。

これが私らの住んでいるところの写真です。

こんな素晴らしいところなんですよね。

すると、この素晴らしさを簡易宿泊というのか、そういうことで1日、2日泊まれるような場所がほしいんですよ、私は。

なんでそんなことを考えるかという、実際は移住者がほしいです。

移住者というのは、現にそこにいる人間の感覚ではない感覚がほしいんです。

農業してくれなんて全然言いません。農業でなくていいです。

この簡易宿泊施設の中、今、光が来ましたからね、諸毛にも。

そういうことでも十分やっつけける。

今、移住者が来るって、そんな簡単に言いますが、実際は私が思うのは中山間地域振興推進地域とかモデル地域ということで、府中市をモデル地域にしてほしい。

すると県知事をお願いしたいのは、中山間地域振興の、あの部署の人を派遣してほしいんですよ。

派遣というのは、ずっと来てくれという意味じゃないんですよ。

特命みたいな感じで、ちょっと諸毛見ちゃれやというて、ひと言、言ってもらうことによって、そういう情報が入ることによって、その情報を基に府中市のほうに中山間地域振興のモデル地域にしてくださいと。

府中市をモデル地域にしてもらったら、当然、広島県もモデル地域にしてくれます。ここ、過疎地域ですから。

そういうなかたちで、実際はノウハウというのか、こうやったらできるよというまで、今日は知事に、それを教えてくれる人を特命みたいなかたちで御紹介願うと、当然、私はその次の段階で、実際は4年後には知事と一緒に、こんな素晴らしい諸毛ができましたよと、見たいですよ、一緒に。

こんなに来ましたよ、人がというような、私はそういうようなで、私がそれだけのものがあるかと言われたら、市長さんに聞いていただいたら分かるんですけど、実際、法人をつくってみたり、農業法人つくりました。

そして、去年は実際に言ったら、諸田ごんぼう組合というのもつくりましたというところ、知事、記事見ていただいていると思いますね、ゴボウ組合をつくったんだよという。

実際、そういうことを発信することによって、実際はいろいろな報道関係がいっぱい来ます。テレビにも出られる。

そういうことによって府中市を、そういうことで活性化できるんじゃないかなと、微力ではありますが、山の上から府中市がいい市になりますように、その発信力にさせていただきたいんですね。

よろしく願います。以上です。

湯崎知事： ありがとうございます。

諸毛でゴボウですよ。ゴボウのみならず素晴らしいところだというのを、竹内さんがすごくエネルギーを持ってアピールしていただいていると思うので、ちゃんと言っておきますから、担当に。

ありがとうございます。

それでは続きまして大畑さんをお願いいたしたいと思います。

参加者③

大畑： 今日はこのような会に参加させていただいたことを感謝します。

ありがとうございます。

すごく緊張しているので何を言うか分からないんですけど、カンペを書こうと思っても何も書けなくて、ドキドキしながら今日、参加させていただいております。

少し自己紹介をさせていただきながら、お話をさせていただけたらなと思っております。

私は地元である上下町で、2016年に空き家物件を商店街のほうで見つけ、見つけてというか見て、本当に昨日まで人がおっちゃんたかなというぐらい、スナックだったんですけど、灰皿もあるしウイスキーもあるし、その中の物件を見て、でも町中である上下町の中では一等地だなと思って、でも片付けるところからスタートなんですけれど、その物件見て、なんか急にお店をやりたいって思いはじめて、思ったらもう止められなくて、思いが。

子どもも3人いるんですけど、子育てしながら経営することもすごく大変で、みんな反対、上下で人がおらん中でやって商売が成り立つんかとか、たくさん反対されて、だけれど上下、地元なので、上下愛がすごすぎて、どうにか自分もこのまちに貢献したいという思いも少し、そのときは少ししかなくて、自分がやりたいということだけが一番で起業しました。

けれど、実際やってみて本当、人口が少ないことがなんじゃとか思っていたんですけど、やってみると、経営してみると、すごく大変で、ましてや子どももいるので、下の子が3歳のときから始めたので、本当お店をしたくても熱が出たから休まないといけないとか、すごく大変なこともあったんですけど、なんとか地域の方に支えてもらって、そこのお総菜屋さんおいしいよって、近所の人に届けてあげるんじゃないかって言っていたら、本当口コミでどんどん広がって行って、5年を今、迎えています。

初めは自分が夢だったことで始めたんですけど、商店街でお店を構えているので、地域の取り組みがすごく間近で感じる事ができていて、本当、上下の資料館の方とかも、

町並みをきれいにしたり、重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）にしたって言って動きをずっとされていますし、子どもたちにはコミュニティスクールで地域の方との関わりをすごく大切に、学校のほうも教育されてきていて、上下町が歴史深いまちで、ここに、観光のこともすごく教えてくださるんですよ。

本当、子どもが小さいときから自分のまちが、こんなにいいまちなんだとか、自分が住んでいるまちの歴史を知れるということが、すごくいいことだなと思っていて、ひな祭りとかイベントが開催される時には、子どもたちも一緒に盛り上げ隊としてイベントに参加させてもらうんですけど、子供たちも自分たちのまちを盛り上げている、参加しているという心の教育というか、それがすごく素晴らしいなと思って、間近で上下町の良さを、小学校も中学校も、今、高校生も上下町のまちに貢献できるような授業をされているので、本当に素晴らしいまちだなというのを今、感じています。

なので、上下町も人口少なくて大変なんですけれど、でも、その中で次世代につなげるために、自分たちのふるさとの良さを大人が教えてあげられる環境、きっと田舎だから嫌だなと思って出ていく子どもたちも、これからたくさんいると思いますけれど、私もそうだったし、だけれど回り回って今度、子どもを育てるときにと思ったら、結局育ってきた環境が良かったら戻ってくるような気がするんですよ。

それが本当に一人でも多く戻ってきてくれて、またそういう取り組みを外部の方が知っていただいたら、まちで子どもを育てたいとか。

まちに住む人が、まちを愛していないと良さは伝わっていかないと思うので、情報発信として私が今日ここに来させてもらったことも、何ができるかなと思ったら、上下の良さをアピールしてこようって思って、本当、上下しか知らないかもしれないんですけど、でも上下の魅力はすごくたくさんあって、これから上下町として新たなビジョンというのは、翁座も府中市のほうで改修していただいて、いいようになっていくばかりだと思うので、翁座が良くなったとしても商店街とかが寂れていると、来てくださった方たちに満足していただけないので、そこは今度は私たちが、お店を運営している私たちが喜んでいただけるように、それぞれの役割で、それぞれの場所でできることを最大限にやっていきたいなと思っております。

ありがとうございます。

湯崎知事： ありがとうございます。もう、ほとぼしる上下愛が、とても感じましたし、それがよく、広島県全体でそういう経過を見せたら、田舎でくすぶってちゃ駄目だとか、そんなこと大人が言うから、みんな出ていくんですよ。

みんながそれぞれ、まちに誇りを持って愛していると、いろいろなことで一度出る、それで見聞を広めるということも重要なことだと思いますけれど、また戻ってくるんじゃないかという、いろいろなところで言えることじゃないかと思います。ありがとうございました。

それでは続いて横山さんをお願いいたします。

参加者④

横山： こんばんは。

リョービ保育園の横山聖美と申します。

本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

今、皆さんのお話を伺って、私はそんな大きな思いとかというのがあって保育士をしているわけではないですが、目の前の子どもたちに一生懸命関わり、その子たちをできるだけいい子に、個性を伸ばしてあげようとかということで、そのようにつながっていくのかなと、今、考えながら聞いておりました。

私は保育士ですので現在の保育の状況、様子、それから、その中で感じていることを少しお話しさせていただこうと思います。よろしく申し上げます。

一日のほとんどの時間を保育園で過ごす子どもたちが、いつも笑顔で明るく楽しく生活ができ、また保護者が安心して我が子を預け、職場に向かうことができ、そのような保育園でありたいと思いながら、日々、保育を行っております。

最近の保育現場は待機児童や保育士不足問題により、経験の浅い保育士が単独でクラス担任を持つ、あるいは定員いっぱいのクラス編成で保育を行うなどに加え、この一年は新型コロナウイルス感染症拡大防止策として園内消毒の作業が増えたので、保育士は毎日せわしく動き回っているというのが現状です。

今後、保育士一人一人の資質の向上と、園全体の保育のレベルアップ、保育サービス

の充実が最重要課題と認識しております。

それからもう1点、当園はリョービ株式会社のグループ会社であり、本社から徒歩5分の立地にありながら、社員の子は園児の15%しか在籍しておりません。

その大きな要因として、リョービ社員の半数以上が府中市ではなく近隣市町に住み、通勤しているため、府中市内の保育園に入園の申し込みができないということが挙げられます。

若手社員さんは結婚の際、独身寮を出て福山市内に住居を構える、あるいは子育て世代が子どもの小学校入学を機に転出するということが多いので、なんとか人口流出を食い止めてほしい、また若者や子育て世代にとって魅力ある府中市であってほしいと願っております。

緊張すると思ったので、カンニングペーパーをそのまま読んでしまいました。よろしくお願いいたします。

湯崎知事： ありがとうございます。本当に子どもたち、一番大事な時期に、本当に子どもたちの人格形成、携わっていただいてありがとうございます。

敬意を表したいと思います。

いろいろな、今、課題提起もいただいたと思いますが、これからは全体を通して私のコメントもさせていただきたいと思いますが、今それぞれ、平さん、それから竹内さん、それから大畑さん、横山さんと、まさに、このビジョンの中で大きな課題になっていることに関わるお話だったかなと思えました。

平さんの誇り、強みというところですね。

これをどうつくっていくかということなのですが、先ほど、持っているものというのもお話があったんですが、持っているものだけではなくて、持っているものから発展させてつくることができる強みというの、われわれはすごく大事なことだと思っていて、DXのお話もいただきましたけれども、ものづくりとDXがつながることによって、さらに強みが拡大をしていくということもあると思いますし、また広島県内全体で言うと、例えば今、県内には医療関係の蓄積というのはあまりないんですけども、ただ、ものづくりの力がありますので、これをプラスチックだとか金属だとか、あるいはもろい木も含めて、いろいろなものづくりの力があるので、それと医療の知識を組み合わせると非常にいいものになるんじゃないかということで、この10年間で医療関連のビジネスというのが3倍に拡大しているんですね。

こういったもの、新しい強みをつくっていくというようにもやっています。

そういったことを、それぞれいろいろ、どういように発展できるかということが、まさにビジョンの産業とか、われわれの強みというところの提案、これは産業だけじゃなくて、いろいろな面でもそうだと思って、それは竹内さんのお話にもつながると思うんですけども、諸毛でゴボウを、これをまさに新しい強みにしていこうと。

すごいゴボウですよ、これね。なんか、とてもすてきなパンフレットなんですけれど、景色もすごくきれいで。

竹内： 観光協会が頑張ってたつったというの。

湯崎知事： それは大事なことで、いいものをみすぼらしく見せては、もう全くもったいないので、とてもすてきにまとめていただいて、最初、僕、丸太かと思いました。

丸太かと思ったけれどゴボウで、それぐらいしっかりとゴボウなんですけれど、でもそれが、ただ単に農業というお話じゃなくて、その地域、中山間地域を、中山間地域というのも非常に大きなテーマであり課題であり、われわれはチャンスでもあると思っていますね、適散・適集という観点からいうと。

その中で、とても新しい強みづくりに、竹内さんは頑張っていらっしゃるんじゃないかなとも私はお聞きしたので、本当にわれわれもしっかりと支えていたらなど、小野市長と一緒に支えていたらなどと思えました。

大畑さんも本当に、地元愛じゃないですけど、それって誇りですよ。

地域の誇り、われわれも大きなテーマにしているわけですけども、それも、ただ過去のものというだけではなくて、そこにいる仲間だとか、あるいは将来に向かって、それを持っていけるもの、伝統にしても、これまでの強みにしても、それまで、そのままということではなくて、次の次代に伝えていくために、また変わっていかねばいけないものというのがあるんだと思いますが、それが例えば大畑さんのお店ですよ。スナックだったんですけど。

大畑： 元々はスナックで、今はお総菜屋さんです。

湯崎知事： そういうようにスナックがお総菜屋さんになる。

より今の生活に密着したかたちで、そこは変化しているのかもしれませんが、新たな誇りを、地域の誇りをつくっておられるということじゃないかと思えますけれど、そういったお一人お一人の取り組みが変えていくんだろうなというのを、とても実感しました。

横山さんは、もう子ども、子育てということで、これも先ほどのわれわれの視点の3つの、非常に重要な、DXと、それからブランドと人材育成という、これの一番下ですよ。

広島県は人材育成の中の一番重要なのが乳幼児期だと思っていて、これは「遊び学び育つひろしまっ子！」って、御存知だと思いますけれども、これも含めて子どもたちが幼稚園、保育園、あるいはそういった園に行く前から、しっかりと教育というか、特にそこで格差が生まれてくるので、その格差をできるだけなくしていくということが、次の時代の広島県をつくっていくと思って頑張っているの、横山さんのような方が、こうやって実際の保育園、現場で、子どもたちをしっかりと見ていただいているのは本当にありがたいと思えますし、今、いろいろな課題も提起していただいて、保育士の人材不足とか本当に大きな課題で、これは私も全国知事会なんかで、あるいは国に対しても、幼保無償というのを国はやったんですけど、無償化するのでもいいんですけど、無償化で所得の高い人が一番メリットを受けている部分もあるんですけど、それはそれでいいんですけど、保育の質を高めるために先生たちにもっと投資をするべきだというのは、ずっと言って、処遇改善だとか、あるいは研修だとか、定着して長くやっていただくとか、そういったことをわれわれもしっかりと取り組んでいきたい。それがまたビジョンの中にも入っているところであります。

そういうようなかたちで、本当にわれわれが重視しているテーマを、皆さん見事におっしゃっていただいて、すごくありがたいなと思えましたし、なんかとても生き生きと元気に取り組んでおられる方が集まっていたいて、とても府中市の未来を明るく感じたところなんですけれど、市長いかがいでしょうか。

小野市長： 褒めていただいてありがとうございます。

今日、さまざまな立場の方4人にお集まりいただきまして、課題も含めて、いろいろな御意見をいただいたところであります。

平さんのほうからは、ものづくりのまちの部分の今後の課題等も含めて御意見をいただき、あるいはDXをどのように活用していくかといったところ、あるいは竹内さんや大畑さんのほうは、中山間地域でいろいろ活動されている点について、いろいろ御紹介をいただいた。

また横山先生のほうからも、子育てについて御意見をいただいたところですけど、まさに竹内さんにしても大畑さんにしても、この県のテーマと一緒に、知事もおっしゃいました誇り、そして挑戦を実践されている方ばかりだからと思っています。

竹内さんのほうも、もちろん農作物を作る傍ら、先ほど言われた、おいしい漬物とか、今、ゴボウを使った商品も開発されている中で、ひとつには道の駅といったところで今、販売、特に農業の関係ですと担い手の話であったり販路の問題があるんですが、そういったところで道の駅を十分活用していただいている。

今度は天満屋の2階にも、またi-coreFUCHU（いこーれふちゅう）というのができますので、そこでもぜひチャレンジしていただければと思っています。

大畑さんのほうも挑戦をする中で、お総菜屋さんを始められた。

先ほど話の中にも出ていたんですけど、子どもさんも育てている中で地域の人が実際、例えば商品を近所の人に届けるのに手伝っていただいたとか、恐らく子どもさんに熱が出たとかいった場合も、恐らく地域の人が随分支えていただいていたんじゃないかなというのを思います。

それが、それだからこそ余計に、地元に対する郷土愛というのは増してきているのかなと思っています。

横山さんと平さんのほうから、くしくも職住近接のテーマもいただいたんですが、府中、お二人ともおっしゃったのが、ものづくりがある中で、実は二十歳前後でいったん大学等へ出られて若い人口が減る中で、25歳前後で回復するんですが、また30歳前後で人口が下がる。

広島県ですと25歳前後で戻ってくると、そのまま横ばいになっているようなんですけど、府中は少しそこが下がるというのは、要するに先ほどから御紹介いただいたよう

に結婚とかで市外に出られる方が多い。

昼間、働いていらっしゃる方が多いわけなので、そこをどう食い止めていくかというのが今後の課題であろうと思っています。

そういった点でDXのほうの、ICTを活用してDXの推進というのも御提案いただいて、これはICTのほうは、もうまさに、ものづくりだけじゃなくて、例えば農業にも、もちろん一緒に使っていただくこともできるでしょうし、あるいは大畑さんのようにお総菜屋されている、また大畑さんのほうも地元のショウガを使ったいろいろな商品展開もされているので、そういった商品にICTを使って、どのように紹介していくかということも十分活用できると思いますし、横山さんの場合は本当に子育ての分は、今、広島県と一緒に連携をさせていただき中で、例えば子どもの虐待であったり、あるいは障害を持っている子どもさん、あるいはなかなか家庭的に問題のある御家庭もあるといったところを、早め早めに一緒になって解決できる方法を今、探しているところでもあります。

先ほど言いました、7月にオープンします天満屋のi-coreFUCHUというところにはネウボラを、まさに広島県が進めておられるネウボラ、府中版ネウボラを開設する中で、誰一人として取り残さないという子育てについても、しっかり取り組んでいきたいと思っていますので、またなかなか子育てをされていたり、あるいは地域で困っているところもあろうかと思えますけれど、行政としてもしっかりと一緒になって取り組んでいければと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

湯崎知事： 小野市長、ありがとうございます。それでは引き続き、ここからはフリーディスカッションとさせていただきますと思えますけれども、今ウェブを御覧の皆様、引き続き何が御質問とか御意見ございましたら受け付けておりますので、ぜひお寄せいただければと思えます。

よろしくお願ひいたします。

まず、それぞれ一巡御発言をいただいたところですけれども、ほかの方の御発言、御意見を聞かれて、何かお気づきの点とか御意見あったら、ここでおっしゃっていただければと思えますけれども、まずいかがでしょうか。何かございますか。こんなように思ったとか、なんでも結構ですけれど。平さん。

平： お三方とも、まちで素晴らしい活動をされている方ばかりで、自分があまり何もしていないなというのを、つくづくと身に染みたわけですけれども。

皆さんが取り組まれていることが、同じ府中に住んで府中に関わっている自分が、ちゃんと知らない、ちゃんと分かっていないということが、すごくあらためて問題だなというようなことを思っています。

これ、なんでだろうという、府中のまちの特性という部分も、もちろんあって、どちらかという内向的というか、自分のテリトリーの中で全部やっしまおうという人たちの特質というの、もちろんあるんですけれど、それ以上に発信するところを。

受け取るというところのメディアというか、そこをつないでいくところが、すごく弱いんじゃないかなというところを感じていますし、もちろんそういうものはあるんですけれども、特に若い人たちにとってつながっていくということであると、デジタルメディアみたいなどころが多くなっていく中でいうと、そこに対してリテラシーも弱いですし、そういうことを使って何かやっていくというところが、なかなかできていないんだらうなということであらためて思いました。

それも、もちろんそうなんですけれども、認知するというところが、もちろんスタート地点であって、それをどうみんな使っていくか、生かしていくかということも、同じぐらい大事だろうなと思っていて、仮に諸田の雲海みたいな景色を知ったとして、それをどうやってみんなで見に行こうという機運につなげていくとか、大畑さんのいわゆるお総菜屋さんというところがあるって知ったけれど、それをどう、上下に何かしに行ったときに、ついでに寄るといふ流れにつなげていくかということも、同じぐらい大事だなと思いましたが、そういうことをまち全体で、まさに行政、民間というところが連携しながら、自分たちで生みだしているサービスとかいいものを、自分たちで生かしながら、自分たちが豊かになっていくためにどうするかということが、こういうコンパクトに生き残っていくということ、まちでやろうとすると、非常に大事だなと思っておりますので、そういったところにDXというものをどう使っていくかってことが大事だと思っておりますし、逆に言うと、ぜひそのサービスをやられている方ってところに、とっては、こういうものをもっと生かしていくということをしかりやっただいて、僕らが少しでもそういうほうに気づけるようなものを、情報として発信していただける

とありがたいなと感じました。以上でございます。

湯崎知事： ありがとうございます。大畑さん、いかがですか、今の発信という観点から、特に世界的にもデジタルは割りと使い慣れていらっしやるじゃないですか。

また、われわれが、市なり県なりが十分に発信をサポートできているかとか、そういった観点からいかがですか。

大畑： 私もお店の情報を発信するのにSNSを使ってやっているんですけど、インスタグラムをよく配信させてもらっているんですけど、上下町に、ここでやる意味というの、人が上下町に来てほしいとか、呼び込むために、ここでハッシュタグ付けて、いっぱい付けてするんですけど、配信するだけだったら意味がないので、来てもらうためにどうしようかなと思ったら、自分の店だけじゃなくて、こういうまちなみがありますよとって、自分のお店だけじゃなくて、まちでの取り組みだったり、また私の店のショウガの商品を道の駅で今日から売っていますってなると、そうしたら府中市の道の駅の情報配信もするし、ハッシュタグ付けてとか、私の情報を共有することができるように、いろいろなところから上下町を知ってもらうために、いろいろ毎日配信するとか考えて、今日もここに出ますというのもインスタのストーリーに上げて、みんなに見てもらいたくて、しどろもどろですけど、こういう活動もさせてもらっている、少し小さいお店ですけど、より知ってもらうための活動として、また自分も勉強させてもらおうと思って、社会勉強で頑張っています。

なので、情報配信は結構SNSでさせてもらって、でも上下町の方も、観光の方もインスタとかで配信されているので、皆さんそれぞれでできる最大限のことはされているなというのは分かります。

湯崎知事： 上下町は、とてもお上手ですよ、そこは。

皆さん、とても熱心な方が多くて、なんていうか、熱意を持った人がたくさん集まっている印象ですよ。

大畑： うれしいです、ありがとうございます。

湯崎知事： いろいろな活動もされていますし、翁座の保全にしても、ずっと地元の皆さんが声を上げられて、ついには市が動いて、今、市の所有ですよ。

改修もされて文化財価値も調べられて、本当になんというか熱心な、そういう熱意が伝わっていくというか、発信というの、表面だけではなくて心の中の熱いものが伝わっていくのかなと思いますけれど。

竹内さんも、そういう意味では、すごく熱心にやっておられて。

竹内： 実際、去年なんかもやったのは、全国に発信するってベジタブルコンサートって、我龍が。

湯崎知事： ベジタブルコンサート。我龍さんが。そうですか。

竹内： はい、我龍がやっている感じ。先生、知事、よく御存知だと思いますが。

湯崎知事： 太鼓のね。

竹内： 私の子どもなんですわ。

湯崎知事： えっ？ えっ？

竹内： 「えっ」なんですよ。非常に。

湯崎知事： 本当ですか。それは分からなかった。そうですか。

竹内： それも最初にありがとうございますって言わにゃいけんかったんですけど。

湯崎知事： いやいや。

竹内： 現実には実際コロナで、ベジタブルなんか中止せえという雰囲気があったです。

でも僕、嫌だったんですよ。

我龍に相談して、なんかいい方法はないかというのが、全国配信したんですよ、同時配信。たら、なんていうんですか、聞いた人が3,000あるんですよ。

湯崎知事： それは素晴らしい。

竹内： そういうように、もう極力そういうようにして、ごんぼう祭りなんかは実際は県の、何人まで集まっちゃいけんとかって、いっぱい書いてあるものがありましたそれを見て行列つくらせて、ごんぼう祭りも去年、無事終わることができました。

そういう発信はしているんだけど、今、もう一步のところには私は来とらんじゃないかなと。すると、今のいう簡易宿泊施設かなんか作って、10人、20人が来てくれるようにして、すると、今まで発信したことが何かのかたちにならんかなとということで、今日は熱弁しとるんです、そういうことでよろしく願います。よろしく

湯崎知事： そうですよ。

そういったことを、さっき平さんがおっしゃった、発信をして知って、その次に何がというところで、そういった宿泊所で泊まることができたら、より深く、この朝の、朝のって、これ朝ですよ。

竹 内： そうです。

湯崎知事： 日の出のときにいないと、この景色が見られないので泊まらないといけないという、この時間の価値も、また楽しんでもらえるというような、そういうことにつながるんじゃないかということじゃないかと思えますけれど。

そういう中で、さっき横山さんが、若い人たちが福山のほうに引っ越しちゃうという、そこは、御覧になっていて、どうして、しかもそんなに遠くないところですよ。

新市とか隣じゃないですかとかいうか、500メートルそっちじゃないですかというぐらいの感じですけど、どうして移られるんでしょうね。この誇りが伝わっていないのか、それとも、小じゃれたバーでお酒を飲んだりとか、そういうことをされたいのか。

横 山： 私は保護者のそういう動きに関してだけなので、実際に市民の方がどういうように思われているのかは、詳しいことは分からないんですが、利便性といいますか、福山まで行くと新幹線が通っていて、大きい道が通っていて、大きな商業施設があり、そういうように楽しめる場所にすぐ行けるというのは、とても魅力的なんだと思います。

あと本当に先ほど言われたのは、新市とか駅家、神辺も、本当すぐ、20分で行けるようなところから皆さん通われているんですけど、そこには大きい道が通っていて周りに飲食店等たくさん並んでいて、安くておいしいものがある。

みんな府中市の人も、そちらに食べに行くのですとか、私も行きたいと思ったり、そういう小じゃれたお店もたくさんあるので、そういう魅力的なことがいっぱい、若者にとって魅力的なことがいっぱいあるんだと思います。

府中市は夜8時過ぎると、もう道路に車が通らない状態で信号も点滅になってしまうさみしい状態なので、なんとかならないかなとは思っています。

湯崎知事： 広島県全体からとか広島市からも、東京にみんな若い人が行きたがるという、それと同じことが起きているのかなというようにも思えますけれど、市長、何かいただいたら。

小野市長： おっしゃった分も、よく分かるんですが、とはいえ例えば私の知り合いも何人かは逆に上下のほうへ大きな古民家を買って、一緒に畑も付いているところへ移住した方も何人もいますし、一方で諸毛のほうもキャンプ場がありまして、去年のキャンプへ来られた方は恐らく過去最高だったんじゃないかと思っています。

諸毛のほうのキャンプ場に隣接している管理棟のほうも少し整備をさせてもらって、きれいなトイレであったり、あるいはワーケーションができるようなかたちを今度、整備するようにしているんですけど、そういったところで、まず諸毛に興味を持ってもらって、もちろん諸毛の人も上下にしても多くのキャンパーが来られるので、関心はすごく持ってこられると思います。

今の言葉で言うと、いわゆる関係人口が増えていると思いますんで、そういった方々に、まず地域を知ってもらって、それからさっき言われたように少しお試的に住んでいただくとか、そういったことをしながら、また地域の人とも触れ合っていく中で、地域の人の温かさとか気持ちも酌んでいただけるんじゃないかと思っていますので、そういったかたちで、また誘導できればいいかなとは思っています。

もちろん若い方が、少し刺激がほしいなと思われている方もいらっしゃると思います。一方で府中ぐらいの大きさがちょうどいい、何をやるにしても、ちょっと歩けばとか、ちょっと車で行けば自然もあって、さっき知事も言っていたように自然もあって都市にも近いというところもある中で、ちょうどいいまちだなんて言われる方もいらっしゃるんですが、若い人からとると少しその辺、物足りなさもあるのかなと思っていますし、これまた何回も言うようですが天満屋のほうへ、またそういったものも、心くすぐるようなものもつくっていきたいと思っています。

湯崎知事： ありがとうございます。最初に平さんがおっしゃっていたと思いますけれど、いろいろな価値観があって、そういうまちだとか利便性だとか、たくさん飲食店があるとか、そういうところが好きな人もいれば、そうじゃなくて、諸毛の雲海が好きだとか、あるいは上下の古民家みたいなのところが、そういうところに住みたいとか、あるいは府中の中心街でも、福山と比べると住宅事情はより余裕があるわけですから、そういうところで広々と子育てをしたいとか、そういう人もいるわけですよ。

特に最近ではコロナのせいで東京か大阪とか、すごく密なところで、ある意味で言うと無理やり暮らしていたような人たちが、なんで俺たちはこんなことをやっているんだろう

と、しかもなんかテレワークしたらテレワークできて、なんでこれまで我慢していた通勤電車はなんだったんだ、みたいな、気がついて移住を始めるというようなことも始まっていますから、共感しない人を無理やり引き留めるんじゃないくて、共感してくれる人をウエルカムするという、これが必要なことかなと、われわれも考えるんですよ。

なので、なんていうか、それぞれの、われわれの持っているいいものというものを、しっかりと、まさにコミュニケーションして、発信をして、それをブランド化して、それがブランドということになってくるんだと思いますけれども、あらゆる側面で、そういうブランドということを認識してもらって、例えば子育てが素晴らしいって、府中の子育てって、私、それは有名だと思いますけれど、あそこの、何でしたっけ。

小野市長： ポムポムですか。

湯崎知事： ポムポムとか、尾道のほうからみんな遊びに来るとか、そんなことも含めて有名どころだと思いますけれど、それってブランドだと思いますよね。そうやってブランド化して発信をして、発信してブランド化して、そこに共感してくれる人に来てもらう、これは関係人口にしても移住者にしても、そういうほうがみんなも幸せだし、実際に増える可能性もあるんじゃないかなと思いますよね。

そういう意味で、県のブランド化だとかといっているのは、有名になりたいからということじゃなくて、施策の有効性を高めるために、こういったブランドということが必要なと思いますし、それを実現する上で今、デジタルというのが非常に重要だし、最初の上下愛のほとぼしりも、子どものときから誇りを持って、いいまちだよというのを教えていく、それが大事なことかなと思うわけですが、本当にわれわれも、もうちょっと頑張らなきゃいけないのかなというところが、あらためて示されたところかと思えます。

そういう中で、どうでしょう。

市長と私がいる目の前で、なかなかこれは言いにくいかもしれませんが、そういう皆さんの挑戦だとか、今の発信ということも含めて、われわれは十分にサポートできていますかねという、それはいかがですか、竹内さん、御感想は。

竹内： 今、知事、言われた、実際に、発信というのは1回、2回じゃなしに、常に発信するという、その積み重ねというか、それでなかなか成果が出ないかも分からん、常に発信しているということが、なんかそれがちょっと足りないんじゃないかなというように気はしますね。

できれば発信するのに、できれば今、平さんみたいに40代とか、ああいうような感性というんですか、年寄りの感性じゃなしに若い、この感性で発信するというようなことを考えたら面白いんじゃないかなと。

府中でもそういうように現に今、発信している子、例えばそうなんです。今40代ぐらいの子とか、一生懸命、府中はどんなんですよ、どんなんですよって一生懸命発信していますよね。

彼らのああいう力を、僕は、発信の中に入れていけば、面白い発信をしてくれるんじゃないかなと感じますけれどね。年寄りがいけんいう意味じゃないですよ。

湯崎知事： それは、むしろ竹内さんみたいな発信力のある人が頑張っていただくというの、大事かと思えます。

そうですね、継続的な発信というのは大きな課題かもしれないですね。

特に県から見るとどうしても、23の市町があって、その地域をみんな同じように扱おうと、どうしても一つ一つが小さくなってしまいがちなので、そこをいかに皆さんに意味のあるかたちで継続的に知っていただくかということは、本当に大事なことです。

でも本当に府中も、あれですよ。

最近だとゼロハンとかね。

これもますます注目を浴びているし、ドローンについてもよく新聞記事にもなっていますし、そういう意味では結構、発信は多いところの気もしますけれどね。

小野市長： そうですね。

湯崎知事： だからそれを、われわれがもっとこうやって、てこ入れをしなきゃいかん。大畑さんはどう思われます？ われわれ、上下の、あるいは府中のことについて十分発信できていますかね。

大畑： 十分していただいていると思います。

湯崎知事： それを言わせてくて御指名したわけじゃないんですよ。

大畑： でも、府中市にしてくださいという前に、自分たちがどれだけやれるかというところ

を見ていただいた上で、してもらんじゃないかなと思っていて、まずは自分たちのまちから発信して、市が抜粋してくれてという、本当それぞれの役割でやっていくのが一番、私の中では配信力、力としては、一番強いのは地元の人が配信するということが一番強みだと思うので、だから府中市にしてくださいという思いも皆さん、私だけが思っていることで、上下町の方も、もっとしてほしいって言われる方もたくさんいるかもしれないんですけど、私が基本的にあまり人に頼らないようにしているので、自分の中でやっていることを周りに認めてもらって、それが輪になって大きくなったら、小さいまちからポツンと発信したのがどんどん広がるのが私の役割でもあり、それを抜粋してくれる府中市の役割でありという、なんだろう、やってもらうことが一番いいです。なんか全然まとめられない。

小野市長： 分かりますよ、よく分かります。

湯崎知事： いやいや、小野市長、なんか涙が出るような市民の御発言じゃないですか。

小野市長： 本当においしい総菜を作っていただいているんで、しっかり皆さんにも、今日御覧の皆さんにも、また上下に行かれた際には、ぜひ寄っていただければと思いますし、さっきも言いましたように地元の、繰り返しになりますけれどショウガが使われたり、竹内さんもさっきのゴボウであったり、またいろいろな商品展開もされているんで、本当に地元のことも一生懸命考えていらっしゃるなど、いつも感心しています。

市としても、しっかり発信できればと思いますし、横山さんが言われた子育ては、知事にも言っていたいたんですが、本当に教育・子育てにも力を入れているところで、しっかり若い保護者の方にも府中市の子育てはいいよというように、しっかり伝える必要がもっとあるかなと思っています。

横山： 言い忘れたんですが、保育園のほうで言わせていただきますと、府中市独自の補助金制度がとてありがたいといえますか、保護者にとりまして3歳以上の給食費を府中市が補助してくださっています。

また小野市長が公約で掲げられた、府中市内の小学校、中学校もですか、エアコン設置、それも本当コロナで夏休みのほうも登校した人たちが、本当にエアコンが付いていて良かったという意見も、私の耳にも入っておりますし、それからネウボラも楽しみにしております。

なので、そういうお考えをどんどん、もう本当に実践していただいて、こちらは活用させていただくということで、本当にありがたく思っておりますので、お願いします。

小野市長： ありがとうございます。

湯崎知事： もう子育て環境というのは、われわれが、行政がしっかりとつくっていかなくやいけない、行政の役割が非常に大きいところだと思うので、市はもちろんですけど県も含めて、市も応援しながら進めていきたいなと思います。

あと今の、先ほどの大畑さんのお話ですね。実は県の目指す姿というところを、もう1回よく御覧いただくと、県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」により、夢や希望に「挑戦」していますというのが目指す姿なんですよ。

これは決して県民一人一人の「安心」の土台と「誇り」というか、違うな、県とか行政がこういうことをしますということを言っているわけじゃないんですよ。

あくまでもこれ、主役は県民の皆さん一人一人、県民の皆さん一人一人が挑戦できるということを、いかにわれわれは下支えするかという。

だから県民の皆さんの主体がないと、われわれも下支えのしようがないというところがあって、その主体性、県民が主体であるということが非常に重要なことだなと、われわれは思っていて、これは実は暮らしの面でもそうですけれども、例えば産業の面とか、農業でもそうですけれども、農業でもやる気のない方を、われわれ、応援しても、農業って発展しないんですよ。

竹内さんのような、こうやりたい、こういうことをしたい、このために頑張るという方を応援することによって、それが活動、挑戦できる、いろいろな条件づくりだったりとか、あるいはそれを支えることだったりとか、いろいろなこと、それで初めてうまく物事が進んでいくんだと思いますよ。

ですから本当に先ほど大畑さんがおっしゃっていただいた、まず自分たちが、一番よく分かっているし、エネルギーも一番、その地域のことについては持っているということなので、それは本当に涙が出るような御発言というのは、まさにそういう、うれしいなという、そういうことでございます。

だんだんと時間も実は、もう押し迫ってきたところなんですけど、最後に何か、どうし

でもこれは言っておきたかったんだけどという、先ほどの横山さんのような、もし。最後、横山さん、もっと忘れていたことがあったら、何かおっしゃっていただいて。

何か御発言ありますか。平さん、お願いします。

平 : 先ほどの発信というものが、行政がしっかりやっていたかかって話、あったと思いますけれど、僕は府中市とフェイスブックで友達なので、非常によく府中市が何やっていると見ることがありますし、すごく、ラジオも含めてしっかりやっていたかかっているなど感じるんですけど、このフェイスブック、果たして何人、府中市民が友達なのというところが、すごく多分気になるところで、対市外とか対県外とか対国外とかに対して発信するのは非常に大事だと思いますけれど、対府中市内に、どれだけ自分たちがやっていると届けられるかというのが、先ほどからずっと言っている誇りだとか共感だとか、そういうところ、果たしてそのブランド化というところには欠かせないところになってきていて、ここが府中ってまだ弱いんじゃないかなと正直、自分が諸田のことも上下のことも分かっていないってことも含めて、そこら辺がまだ弱いんじゃないかなと正直感じていて、ぜひ府中の人とどれだけ多くつながれるかというところを、もうちょっとファクトとして、メディアをどうつくっていくとか、コミュニケーションを図っていくかかってところを具体的に、DXってことを掲げていただけるのであればやっていただきたいなと思いますし、そういうことができることが、未来に向けてブランディング化というところに積み上げていけるところに、非常にスピード感を持ってできるところにつながってくると思うので、ぜひそういうことをお願いしたいなと思いました。

今やっていることを、どうやっていくかかって、やり方の違いだけだとは思いますが、そこをやらないと、どれだけフェイスブックとかラジオとかやっても、多分これ以上、爆発的に増えることはなかなかないと思いますね。

そういうように思うと、手法を切り替えてやるということを実践的にしていかないと、どれだけ頑張っていることも、なかなかかたちとか数字に、成果になってこないと思うので、ぜひそういうことを一緒に民間の力があれば、民間の力とか知恵も使いながらやってほしいなと思いました。すみません、以上です。

湯崎知事: ありがとうございます。よく業界用語的に言うとインナーブランディングというのがありまして、ブランディングという外に対してブランドづくりをしていくということですけども、インナーブランディングがあってこそ、外に対するブランディングというのもあると思いますね。

広島県の今、ブランディングというのを進めようとしているんですけど、われわれブランドステートメントというのをつくって、広島県のブランドをこういうようにありたいというのをつくっているんですけど、それを外に打ち出す前に、まず広島県民、皆さんに御理解をいただくという。

実はこのビジョンのこの会も、ある意味でいうと、ひとつのインナーブランディングでありまして、県民の皆さんに理解をしていただくというところが、まずスタートだと思うので、平さんのおっしゃるとおりでありまして、小野市長、よろしくお願いします。

小野市長: ありがとうございます。

湯崎知事: われわれも頑張りたいと思います。それでは、ちょうど時間もまいりましたので、今日の意見交換をこれで終了させていただきたいと思います。

長いようですが、あつという間の短い時間で、話し足りないところもあったかとしれませんけれど、本当に貴重な御意見をありがとうございました。

いろいろいただいた御意見、われわれしっかりと施策に生かしたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

閉会

司 会: それでは皆様、どうもありがとうございました。

それでは、これをもちまして「ひろしまの未来を語るin府中市」を終了いたします。

本日は御協力いただきまして誠にありがとうございました。